

てんきすと



第 17 号

第 6 回定期総会が開かれる

平成13年5月26日(土)東京都文京区の東京大学山上会館に於いて、東京大学五月祭の最中、第6回気象予報士会定期総会が開催された。

定期総会に先立ち、午前中記念講演(演題「天候金融商品 - 金融界が気象予報士を必要とする時代」、スイス・リー・キャピタルマーケット・ジャパン株式会社金融商品開発部長 勝山正昭氏)が行われた。ビジネスに直結した内容で、皆熱心に聞き入っていた。

今回は新たに、定期総会会場の山上会館2階の会議室を使い支部活動PRコーナーが設けられた。地方活動が活発な昨今、全国の会員が集うこの総会の場で、活動の様子を紹介し、お互いに情報交換しようとして取り入れられた企画である。関西気象予報士会では、開催中の姫路科学館の企画展「めざせ!お天気博士」の様子などを紹介。関西気象予報士会会員は科学館でのボランティアスタッフ用ユニフォームを着用し、活動の説明に当たっていた。会員から話を聞く子供たちの生き生きとした表情の写真は印象に残るものであった。

東京支部は、東京支部天気図検討会と会合の資料を中心に説明。四国支部では、例会の資料や芸予地震のお天気ボランティアに対する礼状などを並べた展示を行った。西部支部は、東京にいる支部会員によるポスターの展示であった。

午後1時30分から、事務センター・岩間杏子さんの司会により、第6回気象予報士会定期総会が執り行われた。定期総会の詳細は、第6回定期総会議事録をご参照されたい。

まず、木村龍治会長の挨拶に始まり、次に来賓の気象庁総務部産業気象課課長補佐の横山博氏より、最近の気象庁及び民間気象事業者の動向にも触れた興味深いご挨拶を頂いた。続いて行われた総会は、会員数1,618名、総会成立定足数405名(全会員数の1/4)、出席者112名+委任状731名=計843名により成立し、議長・藤堂憲幸会員、副議長・川端康夫会員の議事進行により執り行われた。

議案書第1号議案から第6号議案(平成12年度の事業報告・会計報告・平成13年度の事業計画案・予算案・会則改正案・平成13年度役員案)が審議・承認された。およそ3時間にわたり議論が行われ、活発に質疑が飛び交った。総会の最後に、議案とは別に地方支部運営細則(中間案)に関する説明がなされた。

総会終了後には例年どおり賑やかな懇親会が催され、会員同士での親睦交流が深まった。来年も皆様にまたお会いできることを楽しみにするとともに、会員の皆様のご協力に深く感謝いたします。

(文責 高崎・上妻)



神奈川気象予報士会のみなさん(懇親会場)

気象予報士会の これからの課題は

木村会長挨拶



石井副会長と歓談する木村会長

安定成長期を迎えた気象予報士会

本日は第6回総会に参加していただきましてありがとうございます。

特に、ポケットマネーの旅費を使って遠方から来られた方、深く感謝しております。また、御来賓の横山様には、気象庁からいらしていただき、どうもありがとうございます。

本会は、会員が1,500名を超えました。私が関係している日本流体力学会は1,200名、日本海洋学会は1,400名で、大体、頭打ちです。気象予報士会はその両方の値を超えております。日本気象学会は、4,500名ぐらい、まだ気象予報士会より多いですが、気象予報士会は毎年、会員が増えておりますから、近い将来、気象学会を超える大きな組織になることが今から予想されます。

今年度は立ち上げの時期が終わって、もう少し安定発展期、安定成長期の時期に入ったのではないかと、という認識の下に、やや今までと組織を変えました。まず、会費を少し値上げして、事務を外部委託しました。今までボランティアで幹事が献身的にやられましたが、人数も増えていくと、どうしても支えきれない。必然的に事務外注が必要になりました。

しかし、さらに考えるべき事がある気がいたします。

世代交代

例として、積乱雲の発達を考えてみます。

非常に大気が成層不安定になり、ある種のポテンシャルエネルギーが蓄積され、それが開放されて積乱雲ができます。多くの積乱雲は1つの孤立したものが発達すると、ポテンシャルエネルギーを使い切って成層安定化して終わりになります。1時間位で終わります。

ところが、積乱雲の中には集中豪雨をもたらすものがあって、これは1つの対流セルで出来ているわけではなく、次から次へと対流セルが発達して、持続的にある地点に雨を降らせます。

その仕組みを見てみますと、最初に雨を降らせた積乱雲は、

非常に乾燥した空気の中に雨粒を蒸発させて重い空気を作り、重い空気を地表面に土手のように溜めて、そこに風が吹きつけると、それが強制上昇、上昇気流になって、また次のステージの積乱雲になります。その次のステージの積乱雲がまた下層に、次の積乱雲を発達させる仕掛けみたいなものを作って、こういう仕掛けが次から次へと出来、持続するメソスケール降水系ができて、それが集中豪雨の原因となります。

これは、積乱雲だけでなく、あらゆる組織に当てはめることができます。気象予報士会の最初の情熱、初期のポテンシャルエネルギーは、殆ど使いきっております。今後、気象予報士会が発展するには、初期の情熱が作り上げた仕組みが、さらに次の仕組みを作って、次の世代が始まるステージになっていくのではないかと、という気がします。言葉を変えると、幹事の方が非常にボランティア精神で結集して会を作ったものですが、その幹事自身も世代交代していかないと会の組織は持続していかないと、思うのです。

世代交代をするためには、自分が気象予報士会の力になろうと思ってくれる人が、自発的に会の中から出てこない、この会は持続しないと思います。そのような人が出てくる条件として、会がいかにか気象予報士にとって魅力的な会か、そうでないかに関わっていると思います。

省みれば、最初は気象予報士の横のつながりを作る親睦の会でスタートしました。その役割は十分果たしていると思います。全国の気象予報士が、気象予報士会の組織ができたことにより、横の連絡ができて、メール等で色々と情報交換でき、また支部もできました。親睦では私は成功していると思いますが、はたして、親睦だけで年間5,000円の会費を払う意義があるのか。多分、疑問に思われる方もいるのではないかと思います。親睦以上の魅力をこの会が持つようにならなければ、そういう会になり得るかどうか大きな課題になると思います。

求心力の必要性

それから会員が増えますと、いろいろな考え方が生まれます。気象予報士会はこうあるべきだという考え方が人によって違って来るわけです。いろいろな考え方が対立することは、いわば、この気象予報士会を崩壊させる要素ということもできます。要するに、会員が増えることにより、分解要素が必然的に発生してきます。

それに対抗して、いかに会を1つの力として結集していくか、そのためには相当の求心力が必要です。全ての気象予報士が気象予報士会に入らないといけないと思うような会にしていくべきだと思います。おそらく弁護士会はそうなっていると思うのですが、それには権威が必要です。今の気象予報士会は、あまりそちらの方は成功していません。社会的に気象予報士会が権威をもって、気象の予報に関する意見を積極的に述べるとか、また指導的な役割を果たしているか、というと、どうも、そういうふうになっておりません。

ここをどうしていくか、次の持続、発達期の一番大きな課題であると思います。この総会で自由な意見をたたかわせていただきたい。それが求心力となって、良い気象予報士会が出来ると思います。

気象の新しい局面

「求心力」と多分関係すると思うのですが、常に気象の新しい局面を、気象予報士が吸収して、気象予報士の活動に生かすようにしていかなければなりません。気象の新しい局面は2つあるように思います。

メソ気象

1つは、メソ気象に関することです。気象庁はメソ気象に重点を置いて積極的に予報方式を変えています。既にMSMが走って、もうしばらくすると、非静力学モデルへ移る下準備をしている。更にモデルも開放する、プログラムも開放する、こういう方針で考えられています。

メソ気象は防災と関係があります。防災も気象予報士の活躍できる場所の1つですし、メソ気象に注目して、何かそこに自分の技術を生かせることがあれば、是非、それを生かして、防災の面、例えば地方自治体

の防災に気象予報士が深く関わって、気象予報士会をアピールしていく、気象予報士が重要な役割だということをしてPRしていく、これが重要だと思います。

天候デリバティブ

今日の午前、勝山さんから「天候デリバティブ」のお話がありました。これも気象の新しい局面ですね。この問題は、必ずしも、予報と直結するかどうか判りません。勝山さんも言われたように、予報というより気象統計ですね。私は、気象予報士は予報するばかりが仕事でなく、気象全般に対する色々の知識を用いて、またその中に気象統計があってしかるべきで、当然、気象予報士が気象統計の仕事をすることはありうると思います。

それから、更に近未来には、長期予報のデータが「天候デリバティブ」に生かされると、勝山さんが少し示唆されました。現在、気象予報士は予報をできることになったわけですが、1ヶ月を超える長期予報は難しい。例えば、海面水温の変動を考えないと3ヶ月先までの気候、気象というのは予測出来ないですね。海面水温の変動は海洋と関係があり、結構難しい。そういうこともあって、3ヶ月予報となると、まだ難しい問題もあります。そういう問題も、天候デリバティブでは非常に重要になるわけですが、気象予報士の活躍する新しい場所としてあるのではないかと思います。

ということで、気象予報士の活躍の場は非常にバラ色ということではありませんが、必ずしも悲観する状態でもありません。気象予報士の知恵の出し方によって、まだまだ活躍の場は広がられると思います。気象予報士会は、その将来展望をやらないといけないと思います。それをやっていくには、どうしたらよいか、また気象予報士会の組織を充実していくには、どうしたらよいか、是非ご議論いただきたい。気象予報士の将来を決める正念場にいるような気がしますので、この総会で忌憚りの無い意見を出してください。



会員と歓談する来賓の小倉義光先生（右）

記念講演 天候金融商品 金融界が気象予報士を必要とする時代

勝山正昭：スイス・リー・キャピタルマーケット・ジャパン株式会社 金融商品開発部長

「エアコン売上げが猛暑で前年比2倍」「暖冬でスキー場閑古鳥」のようなニュースでおわかりのとおり、日本・世界中の多くの企業経営は、天候の影響を受けている。気象により販売額が左右されることもあれば、仕入れコストが変わることもあり、いずれも企業の業績が大きく変わってしまう。ある研究所によると、通年の平均気温が平年比2度高い場合、わが国の消費は7,200億円増えると試算している。また一説によると、日本のGDPの3分の1は天候リスクにさらされているとも言われている。こういった気象の大きな影響に対し、企業はどんな対策が可能であろうか？たとえば小売業では天気予報を活用して、天候による販売額の変化を見込んで、仕入れを調整することが行われている。あるいは電機メーカーの例では、暖房用ファンヒーターの需要を重点的に喚起することにより、エアコン販売を通じた夏の天候の影響を、企業全体として相対的に減らすように努力してきた。

しかしこれらの色々な対策を通じて、回避できるリスクはまだ一部である。そこで天候による金銭的な業績変化に対し、より直接的な解決手段を提供するために、近年「天候デリバティブ」や「気象保険」などと呼ばれる金融商品が生まれてきた。これらの商品は、気温・降水量・積雪量・風速などの様々な気象観測データの結果に基づいて、金銭をやり取りする取引である。

たとえば冷夏対策用の「平均気温オプション」では、エアコンメーカーがあらかじめ保険料見合いの金額（たとえば5,000万円）を支払うことにより、夏の実際の平均気温が事前に決めておいた水準を下回った場合に、その下回った分に応じて保険金に当たる金額（たとえば最高は5億円まで）を受け取ることができる。このオプションを取り組むことによりそのメーカ

ーは、冷夏による売上げ・利益額減少を金銭的に償うことができ、それは業績の安定化につながられる。これらの商品は数年前に米国で取引が始まった後、2年前よりわが国でも導入されてきた。私の勤務する会社の帰属するスイス・リー・ニューマーケットは、日本・北米・欧州等において企業のさらされている天候リスクに対し、上記のような金融商品を提供している。

天候金融商品を作るためには、高度な技術で気象リスクを分析して予測する能力が必要である。現在使われている方法では、過去長期間に渡る気象観測データを基にした統計的分析により、予測対象期間の期待値とそのぶれ度合いを推定する。各種長期予報を考慮してそれら推定値を修正したうえで、実際の保険料見合いの金額を決定する。予報の正確度が、商品価格を決定する重要要素となる。また多くの企業に注目されている予報により、その需要が変化して価格が変動することもありえる。たとえば上記に例をあげたエアコンメーカー向けの「平均気温オプション」の場合、長期予報がかなりの確率で冷夏を予報すれば、夏型企业の間で業績悪化を避けるために購入ニーズが高まり、価格を押し上げることになる。よって市場参加者の信頼を得た予報が持つバリューは、将来この取引がより活発化するとともにかなり高くなることが予想される。

本講演では、企業経営を取り巻く天候リスクを解説した後、天候デリバティブなどの商品とその価格算出方法を説明し、最後に実際の利用例に触れる。様々な気象観測データと長期予報が、新しい金融商品を通じ、企業の天候リスク対策に役立つことをご理解いただければ幸いである。気象予報士の皆様が銀行・保険会社などの金融界で活躍する日は、もうそこまで来ているのである。

略歴

- 1982年 東京大学経済学部卒業後、農林中央金庫入庫。本店・ニューヨーク支店での勤務を通じ、国内外の債券・資金・デリバティブ各市場業務に従事。
- 1997年 英国ハンプローズ銀行（後に買収によりカナダロイヤル銀行グループに変更）に入社。仕組債・債券引受・デリバティブ各業務に携わる。
- 1999年 スイス再保険会社のスイス・リー・ニューマーケット部門に入社（後に現社名に変更）。企業・金融機関を取り巻く様々なリスクのマネジメントに資するよう、天候デリバティブのような最先端の解決手法に関わり、現在に至る。
- その他 米国シカゴ大学MBA（経営学修士）、日米両国の公認証券アナリスト。国際スワップ・デリバティブ協会東京支部の天候デリバティブ小委員会共同議長。

3周年を迎えた西部支部

気象予報士会西部支部は、平成10年（1998年）7月から毎月1回、福岡県を中心として例会などの活動を行っています。平成11年（1999年）8月からは西部支部のホームページを開設し、その後西部支部独自の無料MLも開設するなど、会員相互の連絡やコミュニケーションも大切にしています。また航空自衛隊芦屋基地や福岡管区气象台の見学も行いました。これからもこのような見学会を随時実施する予定です。

西部支部はおおらかな雰囲気の家です。初めて参加された方の感想を紹介します。「様々なキャラクターの人がいて実に楽しい集まりです」(大西さん)このように「楽しい」という第一印象を持たれる方が多いようです。他支部の活動報告などに刺激され「とりあえず集まって何かやってみよう」という気持ちで始めましたが、「気象」というキーワードを通していろいろな方と語り合える楽しさをほんとうに実感しています。

さて、例会の内容を紹介します。最近は、次のような内容で行われることが多いです。

第1部 明日の天気予報

会員が交代で、気象庁や韓国の気象庁などの気象データを利用して、明日の天気予報に挑戦します。

第2部 気象に関するミニ講演

こちらは会員が持ち寄った話題によるミニ講演を行います。今までやった中から紹介しますと、観天望気、生気象学、気象現象の周期性、洞爺丸事故、野球と気象の関係、ギターで天気予報、カオス、台風の発生、九州の降雪、蒙古襲来と当時の気象条件、気象予報士試験直前ゼミ、防災などがあります。どうです？面白そうでしょう！

第3部 気象実習

金崎さんによる天気図作業及び解説や気象学習、話題提供などがあります。例えば、図式引き算による天気図作成、傾圧不安定論、エマグラム、数値予報、気象衛星誕生などがあります。いつもたいへん勉強になります。

懇親会は、時には手品や皿回し、フラメンコギター演奏が飛び出ることもあるたのしいひとときです。

最近気象予報士同士のネットワークを広げ、交流を深めるため、それぞれの地域の方が参加しやすいように周辺の九州各県での開催も企画しております。平成13年（2001年）5月には、第一弾として長崎県島原市で開催しました。また非ML会員に対しては、無料広告葉書を利用して例会開催の案内をしています。

（このような活動をしてきた西部支部は、現在、西部支部ML会員が36人、郵送会員が2人の合計38人ですが、一度も例会に参加したことがない方も、現在は関東地方にお住まいの方もいらっしゃいます。）

通常の例会では、10～15人の参加があります。帰省した時や出張した時などこちらにお出でになることがあれば、ぜひ一度、西部支部例会に参加していただければと思います。 弘中秀治(西部支部)

《姫路科学館企画展》 「めざせ!お天気博士」に協力して

関西気象予報士会 藤林敏史

関西気象予報士会は4月28日から6月3日まで兵庫県姫路市の姫路科学館で開催された企画展「めざせ!お天気博士」に展示物の説明等のボランティアとして協力しました。土曜日、日曜日、祝日に当番として3名ずつを予定していましたが、結局全部で33名が14日間にわたって協力し、予定の倍以上のべ80名という会員が参加しました。また期間中32日間でのべ12,238名の方が見学に訪れ、見学者の皆さんには気象分野を通じて、自然科学への関心を深めてもらうことができたとして、館長さんからいねいな礼状をいただきました。

今回の協力内容は科学館が企画・準備された展示の説明をすることが中心ですが、GW中や最終日はお天気フェスティバルとして、気象予報士が天気予報の解説をしたり、見学者と一緒に会場をまわったり、屋外で雲の観察をする会場ツアーなどをして欲しいというものでした。展示物の中では、雨粒の形を見る装置や、ペットボトルで雲を作る実験に人気がありました。見学者の人数を見ながら、大画面を使ってお天気クイズをしたり、会員それぞれの得意分野の説明を含めた会場ツアーを実施しました。気象予報士として子供たちと話をする楽しさ、難しさを体験することができ、参加した会員は各自非常に勉強になったと思います。

GWのイベントが終わった頃、科学館側から6月3日の最終日のイベントについて相談を受けました。そこで私たちは昨年からやってきている「楽しいお天気講座」(小中学生に対して行うお天気に関する授業)の姫路版を実施できないかということで提案しました。そして、当日は17名の小中学生を迎えて授業を行い、最後に、企画展会場で明日の姫路の天気予報をテレビの天気予報番組の形で発表してもらいましたが、みんな堂々としたキャスターぶりでした。

この企画展では、私たち気象予報士が見学に来てくれた子供たちに接していた時間は非常に長かったと思われれます。実験はできるだけ一人一人にやってもらい、できるだけ話をするようにしました。子供たちばかりではなく、お父さん、お母さん、また、カップルで来ていた見学者ともゆっくり話すことができました。話してみると、みんな気象のことに興味を持っていて、ついつい話し込んでしまいました。



雨粒を見つめる子供たち

科学館へのイベント協力は東海支部や広島県支部も実施されています。また、人間市でも協力されている会員がおられるようです。今後各地の科学館から気象予報士会に対して協力を求められることが増えてくると思われます。ぜひ、各地の気象予報士会会員の方々ぜひこのようなイベントにできる範囲で参加されることをお勧めします。いろいろと大変なこともありましたが、なんと言っても実験をしている子供たちの笑顔は輝いていました。あの笑顔を思い出すだけで元気が出てきます。ぜひ、皆さんも子供たちの笑顔に会いに行ってみませんか。

関西電力中央給電指令所見学

関西気象予報士会 小山真由美

平年より一日早い梅雨入りとなった6月5日、雨の平日にもかかわらず25名の関西気象予報士会のメンバーが大阪中之島に集合。目的地は関西電力(株)中央給電指令所です。中之島のビル群の中にある関西電力。さぞや堂々としたビルに、輝くばかりの玄関、大きな「関西電力」の看板、そのような建物を想像していたのですが、着いた所は裏口のような雰囲気、壁に小さく「関西電力別館」と書かれているだけ。拍子抜けした気分が6階の一室へ。そこで、テロ等の対象とならないように、目立たぬ構えにしているとの説明を受け、「そうだったのか」と納得。

その後、関西電力の職員であり関西気象予報士会の会員でもある宮崎さんが、映像を使って、一般的な電力の話から電力供給と気象との関連まで、詳しく説明して下さいました。電気は貯えられないので、前日に翌日動かす発電所や発電機の数を決めるそうです。その際、季節や一日の需要傾向だけでなく、翌日の最高・最低気温、平均気温、日照等の予報を二度にわたってチェックし決定すること。気温が1度違えば原発一基分の電力需要の差が出るそうです。

また、送電線の事故の約7割が落雷によるものということで、气象台からの情報だけでなく、独自のレーダやLLSという装置で雷を監視し、被害を最小限にするため送電線への送電量を調整するそうです。

気象関連以外にも、一日のうちでお昼休みに電力需要が減ること、一年のうちではお正月が一番需要が少ないこと、サッカーW杯の日本戦の時には需要が増えたことなど、興味深いお話もしていただきました。

その後見せていただいた指令室は、大きな電光掲示板に刻々と変わる数字、何台ものコンピューター、まるでSFドラマの1コマのような世界です。そこで黙々と仕事をしている人達を見ると、一瞬も気の抜けない仕事ということがひしひしと伝わってきました。

現代社会は、スイッチ一つで電気が流れてくるのが当たり前で、電気がない生活など考えられませんが、多くの人達の毎日の努力の積み重ねで、電気が私達の元に届けられているということ、そしてそこにも気象情報が役立っているということがよくわかりました。これからは電気のスイッチを入れるたびに今日のことを思い出し、電気を大切に使いたいと思います。

懇親会には、関西電力の3名の気象予報士の方を含め23名が出席。公の場では恥ずかしくて質問できなかったことにも答えていただき、とても有意義でした。

地方活動

《栃木県気象予報士会》

活動内容は年2回の例会、3か月に1回の天気図検討会です。例会は講師を招いての講演や、会員の研究を発表する形式で行っています。また、天気図検討会は宇都宮地方气象台の予報官を講師に招き、天気図の解析や予報を教えてもらっています。

次回の例会は8月下旬または9月上旬を予定しています。天気図検討会も8月または9月を予定しています。多数の参加をお待ちしております。

世話役 渡辺茂男 fwga4086@mb.infoweb.ne.jp

大門禎広 daimon@y.email.ne.jp

《千葉県気象予報士会》

千葉県気象予報士会は設立以来、この9月で満2年を経過します。現在までの登録者は58名です。発足以後4回の施設等の見学会、6回の例会を開催しました。先の6月16日の第6回例会では、伊東議司会員(気象庁予報部)による「衛星雲画像の見方と利用の仕方&雲解析事例集」の講演と、議事として「千葉県気象予報士会の今後の運営」について検討しました。登録資格：居住地の有無を問わない。

定例会合：年4回を基本にする。気象関連施設の見学会も企画し、県内諸地域での開催も考える。世話人制度：各世話人の負担軽減のため世話人を増員千葉メーリングリスト：千葉県気象予報士会登録者に対する行事連絡用のMLを今後は登録会員間の意見情報交換にも用いる、

といった点で参加者の了解が得られました。

千葉県気象予報士会へ登録ご希望の方は下記までメールまたはFAXをお願いします。

遊佐昌樹 E-mail: BVE255@my.email.ne.jp

FAX: 0279-60-6382

《東京支部》

東京支部では「会合・天気図検討会・施設見学会」を中心に活動をしています。参加資格は「気象予報士会会員であること」だけで、会員であればどなたでも参加可能です。

「会合」は、最新気象技術の解説や気象現象の解析例の紹介など会員相互の話題提供が中心です。「天気図検討会」では、天気図解析や予報作業などの実習を通して、実践的な技術力の向上を目指しています。「施設見学会」は、気象関連施設の一般公開に合わせて年数回開催しています。行事後に開く「懇親会」も貴重な情報交換の場です。

これまで参加したことのない方の参加大歓迎です。また郵送会員の方にはハガキで行事開催案内をお送りしています。参加希望の方は次までご連絡下さい。

渡辺保之 〒181-0012 三鷹市上連雀 6-6-9-341

E-mail: cqd00545@nifty.ne.jpです。

お待ちしております。

《関西気象予報士会》

大阪管区気象台主催「夏休みミニ気象台2001」
8月23日(木) 24日(金) 大阪市立科学館にてお天気フェアの中の天気相談等を担当

神戸海洋博物館企画展「あした 天気にな〜れ」

8月25日(土) 26日(日)に小学校高学年と保護者を対象に天気図作成等のお天気教室を実施する。

「楽しいお天気講座」や大阪府松原市、京都府宇治市等の教育委員会からの気象に関する授業、講演への講師派遣

第3回関西気象予報士会総会

日時：11月17日(土) 14:00～

場所：大阪府島本町ふれあいセンター(予定)

特別講演講師：元京大防災研の田中正昭先生

関西気象予報士会会則第5条により、役員改選を行います。役員候補を募集しますので、希望者は申し出てください。

関西気象予報士会に関するお問い合わせ、入会申し込み等は次のところまで。

(財)日本気象協会関西支社気象情報部 平松信昭

〒542-0081 大阪市中央区南船場2-3-2-16F

TEL: 06-6266-7613 FAX: 06-6266-6000

E-mail: hiramatu@jwa.or.jp

《広島県支部》

広島県支部は98年4月の設立で、現在の会員数は15名です。これまで17回にわたる例会において、会員間の情報交換と研修を行ってきました。また対外活動として、公民館や広島市消防局からの講演依頼への対応、豊田郡安芸津町役場への訪問と防災システム見学を行いました。また今年の6月には広島市江波山気象館のイベント「お天気なるほど広場」に参加協力し、TVで活躍中の気象予報士トークショーへの出演、ちびっこ予報士試験の採点とコメント、気象予報士への質問コーナーの担当を行いました。例会は主に広島市江波山気象館の会議室をお借りして、2～3ヶ月毎に行っています。次回例会については未定ですが、新たな参加ご希望、その他お問合せは事務局長、

井上貞 Tel: 082-282-2892

E-mail: inouesan@ma2.justnet.ne.jp

までお気軽にどうぞ。

《四国支部》

第9回例会、四国支部総会を次の通り開催いたしました。愛媛県では、初めて松山以外での開催でした。

昨年5月の第5回例会(松山市)以来、四国以外の会員の方にもご参加いただいております。今度の例会では、四国支部総会も併せて開催いたしました。

●日時：平成13年7月20日(金・祝)

第一部；10時30分～ 第二部；13時～

●場所：土居町文化会館(愛媛県宇摩郡土居町入野)

例会終了後、懇親会。(17:00頃より、土居町内)

講師に岡本幸三会員(気象庁予報部数値予報課)をお招きしました。土居町は新居浜と伊予三島の間位置し、瀬戸内海沿岸「やまじ風」の地元です。気象談義が大いに巻き起こりました。

《ご確認やお問い合わせ先メールアドレス》

高橋 yuka@mx9.tiki.ne.jp

はじめ kitutuki@jasmine.ocn.ne.jp

濱田 RXR13772@nifty.ne.jp

次回例会(香川県開催予定)も、皆様のご参加を心よりお待ちしております。おかげさまで、四国支部は、6月に設立2周年を迎えました。引き続き皆様のご指導よろしくお願いたします。

《西部支部》

●8月例会

日時：8月18日(土) 13:00～

会場：福岡市中央区 電気ビル会議室

内容：日本気象学会九州支部主催の気象教室(無料)に参加(以下予定)

「オゾン層について」廣岡さん

九州大学理学部教授

「キャスターのこぼれ話」吉竹さん

日本気象協会 NHK福岡の気象キャスター

「天気図の見方」金崎さん

福岡管区気象台

懇親会：会場未定

●9月例会

ご家族での参加も大歓迎です。

日時：9月23・24日(日祝・月振替休日)

会場：山口県宇部市

内容：23日 南極観測船「しらせ」見学

宇部市役所気象観測機器見学など(見学無料)

24日(家族連れの方は、山口きらら博へ、博覧会はパスという方は、秋吉台アメダス見学など)

懇親会：会場未定

●10月例会

航空自衛隊芦屋航空祭に参加、気象隊を見学

期日：10月21日(日)

会場：芦屋基地(福岡県遠賀郡芦屋町)

すべての申込は、1週間前までに

石丸 090-5021-0687、または弘中 090-8999-4903

hironaka3@city.ube.yamaguchi.jpまでお願いします。

《鹿児島県気象予報士顔合せ会》

鹿児島では去る6月16日(土)に県内在住の6名の気象予報士が集まり第1回目の「顔合せ会」を行いました。初めての会でしたが、思った以上に盛り上がり有意義なひと時がすごせました。

次回の日程などはまだ未定ですが、鹿児島地方気象台の見学会等も企画していきたいと思っております。メーリングリストで案内をし、郵送会員の方にもお知らせするつもりですが「会に参加したいな」と思われた方は下記にご一報下さい。

鹿児島県在住の方はもちろん、近くの方(来られる方)また、鹿児島県出身の方はメール会員で(すでに1名いらっしゃいます)ご参加下さい。

森雅宇 鹿児島市田上台3-11-25

TEL・FAX: 099-275-4174

E-mail: moricchi@f2.dion.ne.jp

乗客の安全を守るという目的は一つ

5月25日に開催された羽田の東京航空地方象台の見学会は、総会前日ということもあって全国各地から30名を超える会員が集まりました。

気象台は空港ターミナルの西側、管制塔のあるビルにあります。参加者は2グループに分かれて観測課と予報課を交互に見学しました。

観測課現業室は9階にあり、ドアを開けると屋上に出ることができます。観測はほとんどが機械化されており、滑走路の各所に配置された観測装置からの情報が画面上で監視できるようになっていました。滑走路視距離や雲底高度も表示されます。屋上では、担当官が「現在の雲量は1、雲形はCuとCc、視程は10キロ近い」と目視観測をしてくれましたが「天気より飛行機を見ている方が面白くて困ります」と笑っていました。

予報課現業室は5階にあり、中央には世界標準時を刻む大きなデジタル時計が設置されています。壁にはFXFEをはじめ、高層断面図や200hPa面の予報図などが掲示され、地上の実況は手書きで解析されていました。予報は「飛行場」と「空域」について行っています。乱気流の予報が難しく、ポテンシャルをエリアと高度で表示する方法をとっているということでした。冬期の積雪の予報は、除雪車両の配備や翼の雪を溶かす大量のお湯を準備する関係から、24時間以上前に行く必要があるそうです。

続いてモノレールで整備場へ移動し、ドップラレーダ局舎に向かいました。ここではマイクロバーストを監視することが主な任務で、風向が一樣でない箇所を注視しているそうです。

その後、地上45m付近にあるテラスに登って、質疑応答となりました。「空港の運営には、管制官、気象官、民間航空会社ほか様々な人が携わっているが、意思決定はスムーズにいきますか」という質問に「すぐに決まります。乗客の安全を守るという目的は一つですから」という力強い答えが返ってきました。

最後に、東航気象台の皆さんと世話役を務めていただいた佐藤祐子幹事に厚く御礼申し上げます。

新幹事紹介

●小川栄造幹事

役割分担は、地方ならびにML担当となります。今までの地方担当幹事の小川豪地方幹事と同姓であります。私は「オガワ エイゾウ」です。

さて、私は現在、横浜に住まっていますが、故郷は大阪の堺市です。大学卒業後は石油会社に勤務し、各地を回りました。1978年6月12日、仙台市で宮城県沖地震を体験。あの日は昼間の勤務時間中で、そのゆれ方は大変なもので生きた心地がしませんでした。次いで、1982年7月23日、長崎豪雨も体験。あの日は福岡から長崎へ出張で、帰る頃には既に雨は激しかったのですが、濁流にもまれることなく帰ることが出来ました。直近は、1995年1月17日、阪神淡路大震災です。その頃、尼崎に単身赴任をしていました。あの日は連休開けで、前夜は夜遅く帰りぐっすり寝ていた為か、その時の衝撃はあまり覚えていません。外に出て、道路の地割れを見て驚愕し、しばらくは耐久生活を強いられました。

地方での気象災害の体験談はさておいて、微力ながら、気象予報士会の発展の為に少しでもお役に立てればという覚悟で幹事を勤めさせていただきますので、よろしくお願い致します。

後で
入れますネ

●上妻美砂恵幹事

メーリングリストでは有名?な“かみつまみさえ@お元気お姉さん”です。気象予報士会に入会し4年、多種多様なバックグラウンドをもつ人生に積極的な多くの仲間と巡り合えたことは、何ものにも代えがたい宝物です。様々な場面で助けてもらい、支えられてきました。だから、自分が少しでも皆様のお役に立てたらと思い、幹事になりました。

この会報「てんきすと」はメーリングリストや地方活動などと異なり、唯一、気象予報士会会員全員が平等に接するコミュニケーション媒体です。

会報担当と決まってから、その責任の重大さに押しつぶされてしまいそうな毎日です。どんなことでも全会員に届いてしまう媒体を扱う責任を肝に銘じつつ、会報を通して全会員と接することができる喜びや楽しみに感謝し“明るく、元気に、素直に”会報編集に取り組んでいきたいと願う所存です。

「地方支部連絡会議」のご案内

第6回定期総会での議決に基づき、下記予定で地方支部連絡会議を開催いたします。

- 日時：2001年9月8日(土) 11:00 ~ 16:00
- 会場：千代田区中小企業センター 501-503会議

編集後記

初めての会報編集でした。前会報担当高木敏明さんや、事務センターの皆さんに編集の流れを教えてもらいながら、どうにか発行に至り、帰路新幹線車中でこの編集後記を書いています。温かく協力して下さいました会の皆様へありがとうございます！と叫びたい気分です。会報「てんきすと」では、引き続き会員の皆様からのご投稿、ご意見をお待ちしております。(編集子) 気象予報士会に関するお問い合わせは下記E-mailアドレスまでお願いします。またホームページの方も今後随時更新していく予定です。

気象予報士会 E-mail: yohohead@mb.infoweb.ne.jp ホームページ <http://village.infoweb.ne.jp/yoho/>

発行日 2001年7月31日 発行人 木村龍治 発行所 気象予報士会© 編集協力 (株)第一プランニングセンター